



いのちとくらしをまもる  
防 災 減 災

令和4年8月10日14時00分  
近 畿 地 方 整 備 局  
琵琶湖河川事務所

トンネル式放流設備の運用を開始します  
～天ヶ瀬ダム再開発事業～

天ヶ瀬ダム再開発事業では、令和4年7月25日(月)から通水試験を実施しており、令和4年8月10日(水)から運用を開始します。

○運用後のトンネルからの放流状況については、琵琶湖河川事務所ホームページで確認することができます。

<https://www.kkr.mlit.go.jp/biwako/index.php>

<取扱い> \_\_\_\_\_

<配布場所> 近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、京都府政記者クラブ、  
滋賀県政記者クラブ、宇治日刊記者クラブ

<問合せ先> 近畿地方整備局 琵琶湖河川事務所  
事業対策官 唐松 雅司 (からまつ まさし)  
TEL:077-546-0844(代表) FAX:077-546-6672

- 天ヶ瀬ダム再開発は、洪水調節の放流量を現況の $840\text{m}^3/\text{s}$ から $1,140\text{m}^3/\text{s}$ に増大させることによって、その後迎える下流淀川の流量が多い時の調節量を確保するものです。
- また、下流部（淀川本川）において被害のおそれなくなった洪水後期に琵琶湖の水位を速やかに低下させて琵琶湖沿岸部の被害を軽減することができます。

## 【現 天ヶ瀬ダム】



天ヶ瀬ダムの放流能力が小さく、また下流河道の流下能力も小さいため、ある規模以上の大雨が降ると、洪水調節容量を使い切り、洪水をダムに貯めることができなくなります。

放流能力の向上  
( $840\text{m}^3/\text{s} \rightarrow 1,140\text{m}^3/\text{s}$ )

## 【天ヶ瀬ダム再開発後】



下流河道の流下能力向上とあわせて、天ヶ瀬ダムからの放流量を安全に増加させることで、洪水時の貯水容量を効率的に活用できるようになり、宇治川や淀川本川への洪水調節機能が強化されます。さらに、下流部（淀川本川）において被害のおそれなくなった洪水後期に琵琶湖の水位を速やかに低下させて琵琶湖沿岸部の被害を軽減することができます。

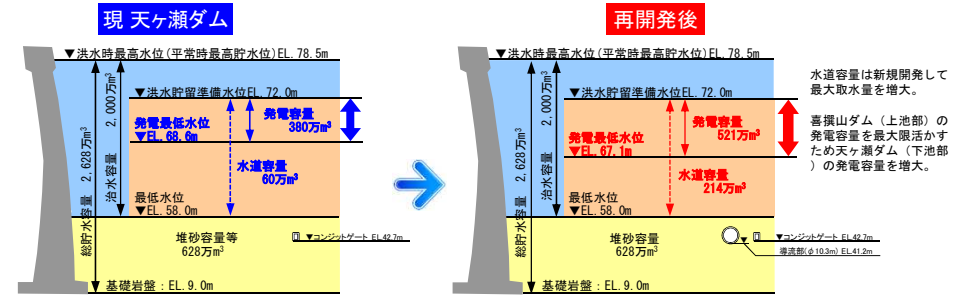
# 天ヶ瀬ダム再開発事業トンネル式放流設備 計画概要

## 事業の目的

- ①治水（洪水調節機能の強化）  
放流能力を増強し、ダムの治水容量をより効率的に活用することで、天ヶ瀬ダムの洪水調節機能を強化。（洪水調節時の放流能力を840m<sup>3</sup>/sから1,140m<sup>3</sup>/sに、琵琶湖後期放流時の放流能力を900m<sup>3</sup>/sから1,500m<sup>3</sup>/sに増強）
- ②利水（京都府の水道用水の確保）  
既得水利権最大取水量0.3m<sup>3</sup>/sに新たに0.6m<sup>3</sup>/sを上乗せして安定供給。
- ③利水（発電能力の増強）  
下部調整池の容量が増すことで喜撰山発電所で新たに年間31,951MWHの電力供給。

## 貯水容量配分図

より効率的な貯水池運用を図ることができ、治水だけでなく利水に活用出来る容量が拡大する。



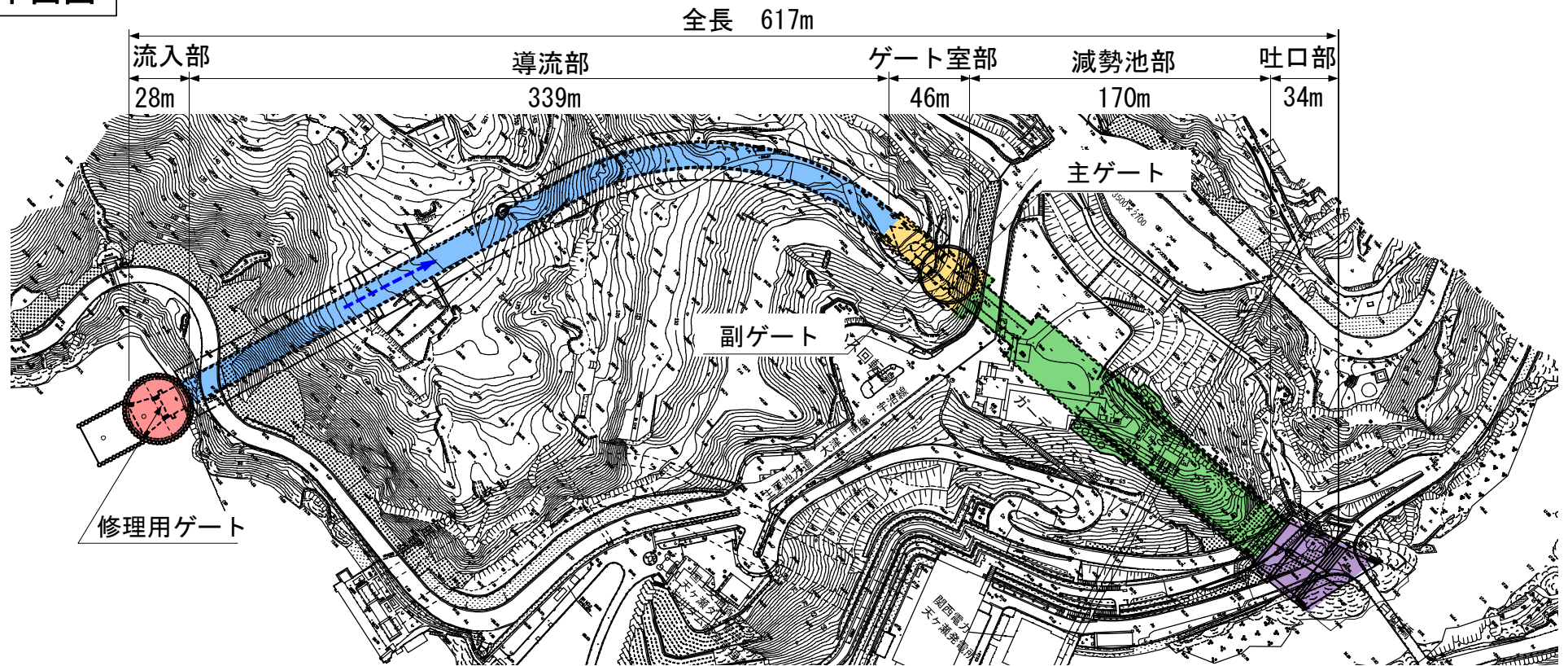
## 施設概要





# トンネル式放流設備

平面図



縦断図

